

兵庫県福崎町 「地域連携サポートプラン」

提 案 書



平成30年2月

国土交通省

近畿運輸局

神戸運輸監理部兵庫陸運部

兵庫県福崎町の概要、公共交通に関する主な取組

町の概要

- 兵庫県の中央部からやや南寄りに位置し、播磨地域の中心地である姫路市中心部から約17kmの距離にある。周辺を山々に囲まれた盆地形状の町域となっており、南北に清流「市川」が流れている。
- 中国自動車道と播但連絡道路が「福崎IC」で交差しており、広域交通の要衝地である。
- 人口はほぼ横ばいに推移している。高齢化率は上昇傾向にあり、平成27年には27%を超えている。通勤・通学とも流入数が流出数を上回っており、昼間人口比率は112.4%で兵庫県内1位である。
- 柳田國男生家・神積寺など、豊かな自然と歴史文化を堪能できる観光資源が点在している。辻川界隈の河童像やもち麦食品の人気により、観光客は大幅に増加している。
- 民間開発による東西の工業団地が、経済活性化や雇用機会創出などで大きな役割を果たしている。分譲は完了しているが設備投資が拡大傾向にあり、駐車場不足や交通渋滞が課題となっている。

人口：19千人
面積：45.8km²



公共交通に関する主な取組み

◆町の計画

H26	福崎町第5次総合計画策定
H28	福崎町総合戦略 福崎町都市計画マスタープラン改定
H29	福崎町立地適正化計画策定
H30	福崎町地域公共交通網形成計画策定(予定)

◆広域の計画（播磨圏域）

H26	播磨圏域経済成長戦略策定
H29	中播磨圏域の立地適正化の方針策定
H30	播磨圏域鉄道沿線まちづくり計画策定(予定)



◆公共交通に関する取組み

H11	サルビア号（無償福祉バス）の運行開始
H22	福崎町地域公共交通会議の設置
H24	サルビア号再編（有償化、市街地部：定時定路線、郊外便：デマンド）
H26	サルビア号再編（まちなか・川西：定時定路線、川東：デマンド）
H26	福崎駅周辺整備事業開始
H28	福崎町地域公共交通活性化協議会へ移行 福崎駅～西部工業団地のバス運行社会実験（H28.4.1～H29.3.31）

公共交通の現状

鉄道 JR播但線 福崎駅

朝夕のピーク時には、姫路方面へ3～4本/時、寺前・和田山方面へ2～3本/時の運行がされている。
1日あたりの乗降人員は平成18年以降年々減少傾向であったが、ここ数年はほぼ横ばいである。
駅周辺に賑わいと憩いを創出することを目的として平成26年度から「福崎駅周辺整備事業」を進めている。

高速バス 福崎インターバス停

神姫バス(株)・西日本JRバス(株)により運行されている。(大阪方面へ15便/日、津山方面へ14便/日)

民間路線バス

神姫バス(株)により、以下の3系統が運行されている。
「姫路駅～溝口経由福崎駅」「姫路駅～江飼団地経由福崎駅」「姫路駅～南大貫経由北条営業所」
現在は北部の市川町や神河町、西部の旧・夢前町・旧・安富町(現:姫路市)に向けては運行されていない。
町内の1日あたりの乗降人員は、5年間ほぼ横ばいである。

コミュニティバス:サルビア号

「まちなか便」	定時定路線	12人乗り	神姫バス	月曜～土曜(祝日除く)の毎日	1系統	8便/日
「郊外便(川西地区)」	定時定路線	8人乗り	神崎交通	月曜～土曜(祝日除く)の奇数日	2系統	各5便/日
「郊外便(川東地区)」	デマンド型	8人乗り	神崎交通	月曜～土曜(祝日除く)の偶数日	2系統	各4便/日

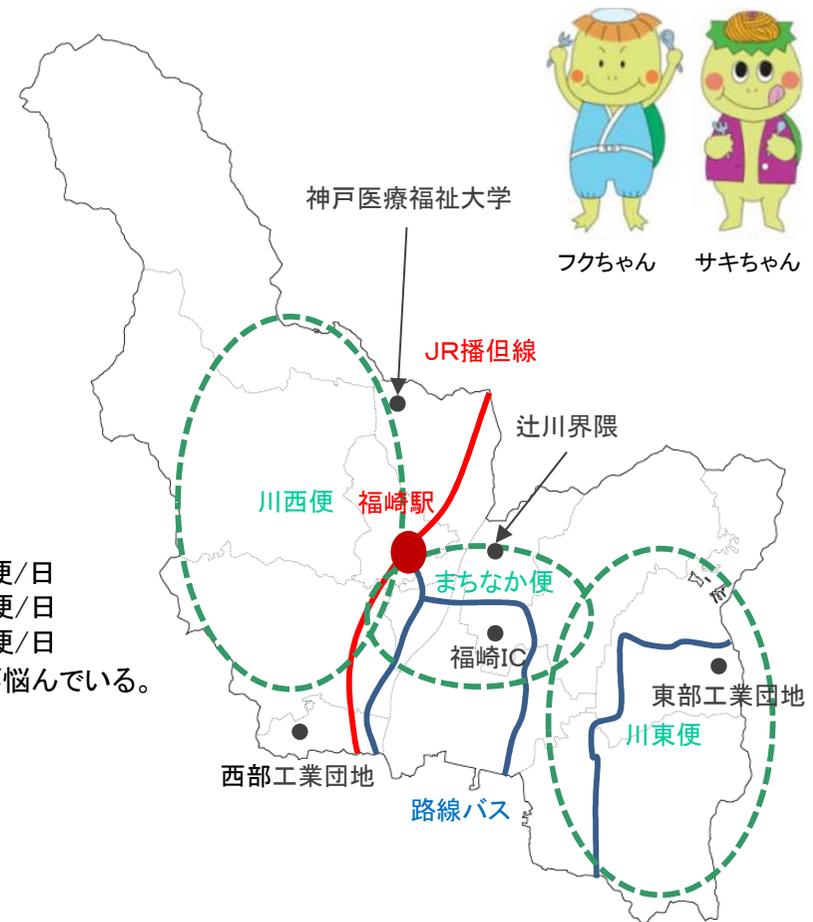
※「まちなか便」「郊外便(川西地区)」の利用者数は増加傾向であるが、「郊外便(川東地区)」は伸び悩んでいる。

タクシー

神崎交通(株)が町内全域で運行している。
昼間は、福崎駅から辻川界限・工業団地・商業施設への利用が多いが、夜間の利用は少ない状況にある。

※スクールバス(神戸医療福祉大学)

福崎駅から神戸医療福祉大学まで、終日運行している。(土日祝を含む毎日:7時台～22時台まで)
寮生の買物等を目的として、学生寮と町中心部を結ぶ巡回便を運行している。(土日祝を含む毎日:17時台～21時台まで)



課題

- ① 住民ニーズにきめ細かく対応した公共交通ネットワークの構築による地域社会の活力の維持・向上
- ② 隣接する市町の分担・連携による都市機能確保に資する広域ネットワークの形成
- ③ 観光旅客等の移動の利便性向上
- ④ 住民を含む関係者の参画による公共交通の維持・活性化



課題 ①

住民ニーズに
きめ細かく対応した
公共交通ネットワークの
構築による地域社会の
活力の維持・向上

コミュニティバス「サルビア号」は町内3コースで運行されているが、以下のような課題がある。

- まちなか便は、通勤・通学に利用できる時間帯に運行されていない。
- 郊外便は地区ごとに奇数日、偶数日に運行されており、曜日が固定されていない。
- 郊外便(川東便)は、町の中心部へ直接アクセスできる場所が少ない。
- 高速バス停留所(福崎IC)へアクセスすることができない。

「サルビア号」の運行形態の改善による利便性の向上

- 「サルビア号(郊外便)」について、日常生活のリズムにあわせた利用がしやすいように、運行曜日を固定したり、運行日を拡大するなどの見直しをすることが考えられる。
- 利用者数が伸び悩んでいる「サルビア号(川東便)」について、町の主要施設が集積する市街地へのアクセス改善や、路線バス停留所から離れた地域の高齢者等の移動環境の改善を目的に、乗降可能箇所を拡大して利便性を向上させることが考えられる。
- 広域移動の利便性を確保するため、高速バス停留所(福崎IC)へサルビア号を乗り入れることが考えられる。

既存の交通手段の活用による移動手段の確保

- JR福崎駅・福崎町役場周辺などの市街地において生活サービスやコミュニティを持続的に確保するため、「サルビア号:まちなか便」の運行に加えて、大学所有のスクールバスを住民輸送に活用することにより、通勤・通学時間帯の移動手段を確保することが考えられる。なお、検討にあたっては、それぞれの交通機関が果たすべき役割を明確にして、相互の連携補完を図ることが重要である。

駅前(交通広場)	8:45	9:30	10:30	11:30	駅前(交通広場)	13:35	14:30	15:30	16:30
馬田(西正寺)	8:48	9:33	10:33	11:33	文化センター(エルゴホール前)	13:37	14:32	15:32	16:32
新町(公民館)	8:49	9:34	10:34	11:34	馬田東	13:38	14:33	15:33	16:33
馬田東	9:21	10:25	11:25	12:25	新町(公民館)	14:24	15:24	16:24	17:24
文化センター(エルゴホール前)	9:22	10:26	11:26	12:26	馬田(西正寺)	14:25	15:25	16:25	17:25
駅前(交通広場)	9:24	10:28	11:28	12:28	駅前(交通広場)	14:28	15:28	16:28	17:28

サルビア号(まちなか便)

大学スクールバス

町内巡回バス					
時刻	乗車場	下車場	所要時間	乗車場	所要時間
16:30	40	45	*17:00	17:10	
17:25	35	40	*50	18:00	
18:10	20	25	*35	45	
19:00	10	15	*25	35	
20					
21:15	25	30	*40	50	

スクールバスの活用 (イメージ)

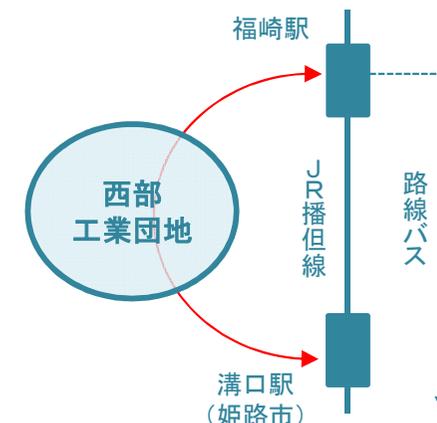
課題 ②

隣接する市町の 分担・連携による 都市機能確保に資する 広域ネットワークの形成

- 約4000人の従業員が通勤している西部工業団地については、公共交通でアクセスすることができず、周辺道路は町域外からの通勤のための自家用車等で慢性的な渋滞が発生している。
- 神河町にある神崎総合病院（神崎郡で唯一の公立病院）には、福崎町の住民も通院しているが、公共交通アクセスは隣の市川町からのコミュニティバスがあるのみである。また、市川町から福崎町へは買い物目的等の需要が一定程度あるが、これに対応した公共交通アクセスは存在しない。

西部工業団地周辺のアクセス確保

- 町外からの通勤者等の交通アクセスを確保するため、「溝口駅（姫路市）～西部工業団地～福崎駅」のバス交通を整備し、自家用車から公共交通への利用転換を促進することにより、交通渋滞や駐車場不足などの課題の解決に繋げることが考えられる。なお、路線等を検討するにあたっては、既存の路線バスとの役割分担に留意し、整合性を図ることが重要である。



市川町と連携した神崎総合病院へのアクセス確保等

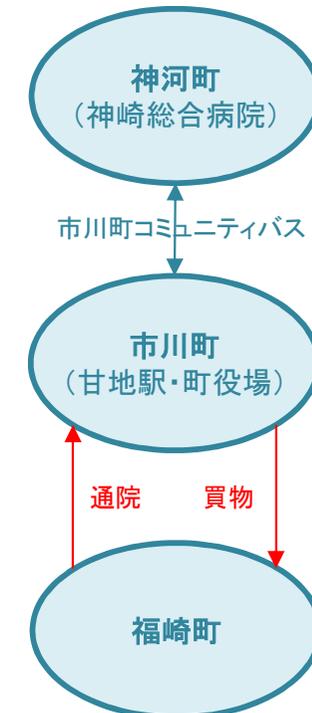
- 市川町との間に共同でコミュニティバスを運行することにより、福崎町から市川町経由での神崎総合病院へのアクセスと、市川町から福崎町への買い物等アクセスを同時に提供することが考えられる。



神崎総合病院



市川町コミュニティバス



課題 ②

隣接する市町の 分担・連携による 都市機能確保に資する 広域ネットワークの形成

- 姫路市が中心となって「播磨圏域経済成長戦略」が策定されており、圏域の8市8町が連携しながら、雇用創出・定住促進・地域の活力向上を図ることが求められている。
- 特に圏域の一大交通結節点であるJR姫路駅方面へのアクセスを高い水準で確保・維持することが重要である。

播磨圏域の中心都市「姫路」へのアクセス確保

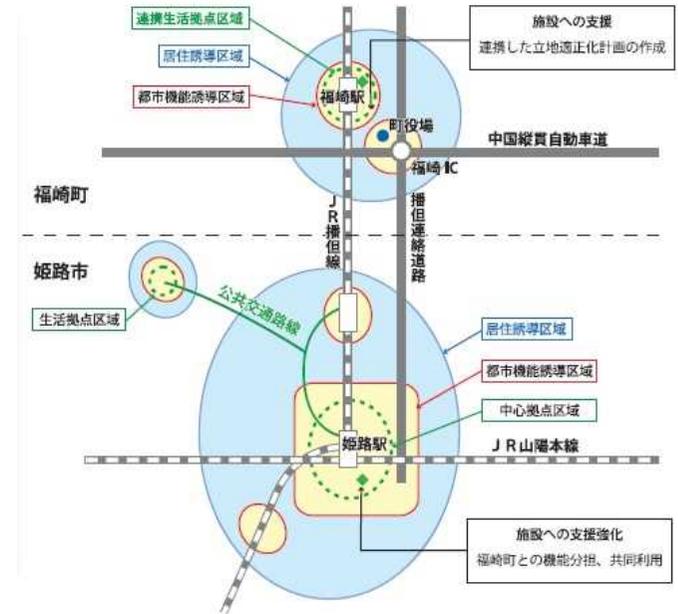
- 姫路市等への主要な交通手段であるJR播但線の維持・活性化のため、福崎駅の周辺整備事業を実施するにあたっては、高齢者に優しい待合スペースの整備に加えて、鉄道とバスのダイヤを調整するなど、ハード・ソフトの両面から具体的方策を検討することが効果的である。



現在の福崎駅



福崎駅周辺整備事業（イメージ）



福崎町都市計画マスタープランより

- 鉄道と並んでJR姫路駅等への重要なアクセス手段である路線バスについても、沿線市町と共同で生産性向上のための取組を進めるなど、維持・活性化を図ることが重要である。

課題 ③

 観光旅客等の
移動の利便性向上

- 柳田國男生家・もちむぎのやかた・河童像などがある辻川界隈を中心に観光客数が大幅に伸びているが、点在する観光資源をつなぐ周遊ルートが未整備のため、短期の滞在にとどまっている。
- 地域の玄関口である福崎駅において、観光地へのアクセス方法などの案内が少なく、訪日外国人を含む来訪者に対する情報提供が不十分である。

タクシーを活用した様々な移動ニーズへの対応

- 観光旅客等の多様なニーズに、きめ細かく柔軟に対応するために、少人数の機動的な輸送に優れたタクシーを活用することが有効である。具体的には、関係者が一体となって、観光ルートを選定したり、買物割引特典を付与したりするなど、付加価値の高い魅力的な観光タクシーを導入することなどが考えられる。

福崎駅再整備にあわせたデジタルサイネージ等の導入

- 観光資源を活用した需要創出のためには、訪日外国人旅行者を含む来訪者にとっても分かりやすいように情報提供が行われることが重要である。福崎駅の再整備に合わせてデジタルサイネージを設置するなど、公共交通の情報をきめ細かく伝えることは利便性向上に極めて有効である。

※訪日外国人向けの多言語化対応等を同時に行うことにより、「訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業費補助金」等、国の支援制度を活用することも可能である。



辻川山公園の河童



柳田國男生家



バス運行情報（姫路市）

課題 ④

 住民を含む
 地域の関係者の参画による
 公共交通の維持・活性化

- 自治体の財政や公共交通事業者の経営をとりまく環境が厳しい中で地域公共交通を持続していくためには、利用者や地域の応分の負担についても十分に検討する必要がある。
- 町内の各交通について一覧性のある形で情報提供がなされておらず、手軽に利用しにくい。
- 自家用車での移動に依存する住民が多く、自家用車が使えなくなった場合の移動手段について十分に考えられているとは言いがたい状況である。

サービス水準に応じた適切な利用者負担

- コミュニティバスの運賃の設定にあたっては、利用者による応分の負担のあり方について、地域公共交通活性化協議会で十分に協議した上で、必要に応じて見直しを図ることも必要である。

わかりやすい公共交通情報の提供

- 鉄道・バス・タクシーなど、あらゆる交通モードを網羅した交通案内をホームページ等で発信することにより、ルート・ダイヤ・利用の仕方などを分かりやすく情報提供することが考えられる。

新たな需要創出に向けた取組

- 地域公共交通について、住民が自ら主体的に考えて、行動するきっかけとするため、「交通安全教室」「バスの乗り方教室」などの住民参加型イベントを開催するなど、公共交通を身近なものとして意識してもらう取組を継続することが重要である。



（平成29年11月八千種小学校交通安全教室）

協定締結から提案に至るまでの間の成果（兵庫県福崎町）

平成29年 7月10日

地域連携サポートプラン協定の締結

平成29年 9月 1日

福崎町・運輸局による現地調査・打合せ

平成29年 9月14日

福崎町地域公共交通活性化協議会（現状分析・課題整理）

平成29年10月 5日

福崎町・運輸局による関係者（交通事業者・神戸医療福祉大学）との協議・調整

平成29年10月24日

学識経験者による現地調査・助言

平成29年11月15日

八千種小学校 交通安全教室

平成29年11月30日

福崎町地域公共交通活性化協議会
（地域公共交通網形成計画の方向性）

平成30年 2月13日

福崎町・運輸局による打合せ、神戸医療福祉大学との協議・調整

平成30年 2月15日

地域連携サポートプラン課題研究会
（学識経験者等からの助言・意見交換）

平成30年 2月23日

地域連携サポートプラン提案書交付



▲地域連携サポートプラン協定締結式



▲町長・副町長との意見交換



▲神姫バスとの協議



▲神戸医療福祉大学との協議



▲神崎交通との協議



▲学識経験者による助言